

アナウンス内容についての確認

競技運営委員会 アナウンサーチーム

1. 日本記録等の新記録誕生のアナウンスについて

新記録が確認された時点で「新記録の誕生です!」とコメントしてよい

日本記録については本来なら、諸手続きを経て公認されるものではあるが、その場で計測された数値は事実であり、臨場感を大事にし、その瞬間を選手と観客が共有できた喜びを伝えたい。

記録が確認されてすぐ新記録のコメントをせず、当該レースや当該種目の終了を待ち、全体の結果が確定するまで待っているのは、間の抜けたアナウンスになってしまう。

例えば、やり投げで北口選手が、1 回目に 70m ラインを超え、計測結果が標示されたにもかかわらず、

「日本記録を上回っている模様です。正式結果をお待ちください。」などとコメントした場合、やり投げの競技が終了して投てき物の再検査が行われ、結果が確定し、結果発表まで何も言えないことになってしまう。

正式結果(確定された結果)の発表を待たねばならないとなると、臨場感のあるタイムリーなアナウンスは実現できない。

・トラック種目

1 着の選手がフィニッシュして止まったフィニッシュタイマーが一度消え、レーンナンバー・風向風力の情報とともに、タイムが再表示されたところで「新記録の誕生です!」とのコメント。

ただし、黄旗が拳がっている場合は記録の確定を待つという旨のコメントに留める。

→ 黄旗がなかった場合、フィニッシュタイマーに再表示された記録が確定されたものである

・フィールド種目

記録表示板に計測結果が表示されたタイミングでコメント。

→ 例) やり投の日本記録を示すのラインが引かれていて、これを完全に越えている場合は表示の前に「越えている」のコメントをして計測結果表示を待つのもよい

・日本記録について

陸連で公認されている日本記録は、CR34 [国内]にある種目とカテゴリーであるものの、「魅せる競技会」にするためには、それ以外の国内記録についてコメントしたい場合もある(国スポなど)。

→ 日本記録(シニア)・U20 日本記録・U18 日本記録以外の学生・高校・中学等の記録をコメントする必要がある場合は、各 HP 等で事前に確認すること

日本記録…陸連 HP <https://www.jaaf.or.jp/record/>

学生記録…日本学連 HP <https://iuau.jp/recordroom/ur.html>

高校記録…(機関紙)月陸 Online <https://www.rikujyokyogi.co.jp/highschoolrecords>

中学記録…現在検討中

2. フィールド種目のトップ8を発表するタイミングについて

システム使用時には、トップ8の記録が確定された時点で、スクリーン使用時は表示も合わせて発表する

システムを使用している競技会では、ピットで選手に伝える前にアナウンサーによって発表できることが多い。システム使用により、記録の正確性は担保されていると考えられる。トップ8を選手に伝えるのは、フィールド審判員でなければいけないということはない。むしろ、記録が確定したら一刻も早く伝えて、時間をかけずに後半の試技へつなげる。

選手に対しては、トップ8は場内アナウンスの発表やスクリーンの表示で確認する旨を事前に伝えておき、競技を進めるというやり方をしている競技会もある。

この場合、トップ8をどのように発表するのかを事前にフィールド審判員と確認しておく。

3. 選手の呼び方について

「さん・くん」を付けずに呼ぶ等、選手の呼び方についての決まりはない

陸連として「こうすべき」という指示はなく、競技会主催者が方針を立てればよい。最近では、男女ともに「さん」呼びをする場面が多くなっているが、競技会の性質や参加する選手のレベル・年齢層等を考慮して決めればよい。ただし、一旦方針が決まったならば、途中で変更するべきではないし、その競技会を通してアナウンサー全員が、同じ呼び方ができるように徹底する必要がある。

4. 用語等について

原則は陸連 HP 掲載の『JAAF アナウンサーのしおり』『初めてマイクにむかう人へ』のとおり

とくに、数字の読み方・種目の読み方・途中時間の読み方等をもう一度確認してほしい。

最近では「…であります」という言い方はせず、普段の話し言葉に近い自然な言い回しになっている。

例) 「…です」「…ました」等

また、400m や途中時間の読み方を「1分10秒」とするのか、「70秒」とするのかには現在のところ決まりはないが、選手に向けてのアナウンスなら、選手が普段慣れている秒単位であるし、観客に向けてなら、実生活に倣い分単位であろう。アナウンスする相手を念頭に、主任の判断で方針を立て、その競技会のアナウンサー全員が統一した言葉でコメントする必要がある。

5. 競技会を盛り上げるための音楽について

演出としてBGMを使用することにルール上の制限はない

BGMを使用するのか、どの程度の音量にするか等は、競技会の性質や競技の進行に応じて主催者が決める

大規模競技会などでは、プロのDJが入り、競技中に大音量で音楽を流すことが多くなった。

この場合、競技運営上支障が出たとしても、BGMの音量調節より、競技運営の方法を工夫することが求められることもある。例えば、審判員同士の会話が聞こえにくい場合は無線を使用するなど、事前に対策を立てておくことが重要となる。

EPMが任命されていれば、BGMをいつ使用するか、どのタイミングで止めるのか等EPMの判断によるが、EPMやDJが不在でBGMを付けるとすればアナウンサーが兼任する場合が多い。関係者との事前の丁寧な打ち合わせにより理解を得ることが重要となる。

以上